

### 第3 問題作成部会の見解

#### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

「倫理」

人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

「政治・経済」

現代における政治，経済，国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治，経済，国際関係等の客観的な理解を基礎として，文章や資料を的確に読み解きながら，政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては，各種統計など，多様な資料を用いて，様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

#### 2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 「正義」を中心的テーマとした。高校生が，正義について学ぶ意義を模索する中で，古来の様々な正義と，彼らの日常とを関連させつつ，先哲の思想を探究するという場面（冒頭の会話文）を設定し，これを通じて，倫理的課題について考察する力と教科書知識の基本的理解を関連させて問うことを試みた。問題作成に当たっては，古代ギリシア思想，中国思想，キリスト教，イスラーム教，インド思想についての基本的な知識・理解を満遍なく問うよう注意した。問1，2において，様々な分野において同一のテーマがどのように扱われているかという知識を問ひ，問3，4は資料を用いながら，その理解を教科書知識と同時に問うことを試みた。

第1問全体は6割を少し上回る正答率からみて，標準的な難易度であったと言えるだろう。また，ほとんどが識別力の高い問題となった。ただし，問題全体の巻頭である問1の正答率が最も低かったことには留意したい。

問1は，「十戒」の内容構成を知らない④を排除できないことから，正答率が著しく下がったと考えられる。このような誤答の作り方には再検討の余地がある。また本大問のコンセプトである「正義」に対して，諸宗教における「道徳的な正しさ」という問いを設定したが，結果宗教についての一般的な知識を問うものとなったため，別の観点からの設問の仕方もあったかもしれない。問2は，③に教科書知識を踏まえた応用的記述を誤答として配置したが，これを選択した人は少なかった。教科書知識から一歩踏み出した問題を出すには一層の工夫が求められるということだろう。問3は，各選択肢の中で，資料の理解と性悪説の正確な知識を同時に問うことを試みた。この設問には資料を用いて教科書知識の少し先に行くという意図があった。問4は，資料読解を通して，ソフィストとキケロの思想背景を問うとともに，キケロによって説明されるストア派の法思想についての知識を問うたが，資料解釈（a・b）は平易であったと思われる。

第2問 日本思想における問いについての探究活動という学習場面を設定し，生徒と先生の対話や生徒のレポート，日記と展開し，資料の読解を通して，「倫理」の基本的な知識を押さえつつ，問いの生成について考えさせることを目指した。

各設問については，上の学習場面と関連した出題となること，及び共通テストで求められる

資質・能力を問うことを意識して、各領域と時代をバランスよく出題することを心掛けた。全体の趣旨を問うた問4のみ正答率が高くなったが、他はおおむね標準的な正答率となった。

問1は古代の仏教者についての基本的な理解を問う設問で、「標準的な難易度の問題」という評価であった。問2は日本の神々の基本的な性格を、代表的な神に関して問うた。個々の神についての知識を問うことを意図した訳ではないが、「他の選択肢を誤文と見抜けるかとなると教科書レベルは超えていよう」という評価があった。伊藤仁斎の「仁」の思想を、身近な人間関係に即して判断させた問3は、「良問」との評価を受けた。問4では、三木清の『読書と人生』を読ませることで、読書の場面を典型とする問いの生成について考えさせた。正答率の高さから出題者の意図は達成されたと言えるが、結果的に平易な資料読解問題となったことは否めない。

第3問 「自由」をテーマに、自由に関する近現代思想についての高校生の課題探究を通して、自由に関連する知識や倫理的課題についての思考力・判断力・表現力等を問うた。自由はどのように実現されるのかについて考えさせ、倫理的な思考力・判断力を深めることをねらいとした。問3では、自由が迷いを生じさせることに関わるシェリングの資料と、高校生と先生の会話を通じて、日常生活の中の倫理的諸課題について多面的・多角的に考察できるかを問うた。難易度としては結果的に平易なものだったようだ。原典資料の活用方法についてはさらに工夫をはかりたい。問4は全体の趣旨を問い、大問全体をまとめる役割の問題である。「標準的な難易度でありながら深い学力が問われる良問」との評価を受けた。

第4問 「格差とその是正」をテーマに、個人と社会はそれぞれ何にどこまで責任を負うべきかを考える問題を目指した。本問では、「運と努力」というテーマを軸に据えながら「格差とその是正」をめぐる論点を追うことで、社会の問題を個人の視点と結びつけて考えられるような問題構成を心掛けた。またそうして自己と他者の関わりを扱い、多様な人間観を受け容れる方向へと進んでいる現代の特質も浮かび上がらせることを試みた。

各設問については、上述の主題と関連した出題になることを意識しつつ、共通テストで求められる資質・能力を問うことを目指し、現代の倫理的諸課題、青年期の課題の各分野をバランスよく出題することを心掛けた。

大問の趣旨と特に関係が深い問題としては、問3・4が挙げられる。問3は、大問の趣旨に即した現代の思想家に関して、教科書上の知識とともに資料の読み取り能力と思考力・判断力・表現力等を問う問題である。正答率も妥当な範囲に収まり、この型の問題としては適正な形の出題になったと考える。問4は、大問の趣旨に即して、会話文を読み取りながら思考する能力を問う問題である。正答率も適正な範囲に収まり、大問全体についての理解を問う上で一定の意味がある形を提示することができたと思われる。

その他、特色のある結果となった設問としては問1・2を挙げることができる。問1は個人の自立に関する知識を問う問題であるが、心理学者からの引用という形式に対応できていなかった受験者が多かったように思われる。些末な知識を問う問題と受け取られてしまったかもしれない。問2は国際社会の福祉に関する知識を問う問題である。アを正解とした誤答が多く、有名な思想家であるセンに関して正確な知識を問う上では有効な設問だったと思われる。

第5問 生徒たちが「政治・経済」の授業を基に整理したノートから、経済に関する総合的な問題を作成した。問1は、都市の過密化、地方の過疎化の経緯や現状、対応策に関する基礎的な知識を問う問題である。問2は、地方財政に関する基礎的な知識を問う問題である。問3は、地域再生の各主体に関する基礎的な知識を問う問題である。問4は、リサイクル率の仮想的な値を用いて、その結果を正確に読み解く力を問う問題である。問5は、日本国債の保有者構成比

の変化の背後にある要因を問う問題である。問6は、国内総生産の支出項目について、基礎的な知識を基にメモを読み取る力を問う問題である。正答率は、問6が最も低く、問5が最も高かった。全体としての難易度は標準であった。

第6問 生徒たちが大学のオープンキャンパスに参加し模擬授業を受け、授業の資料や授業を踏まえた議論を素材に、国際政治及び日本政治に関する諸問題を考察する問題を作成した。問1は、今日でも継続する紛争に関する基礎的な知識を前提にして、パレスチナ問題の進展と課題を問う問題である。問2は、戦争の違法化に関する基礎的な知識を前提にして、国連による集団安全保障体制の進展と課題を問う問題である。問3は、日本の安全保障に関する基礎的な知識を前提にして、法制度に関する近年の変更点の理解を問う問題である。問4は、日本の議院内閣制に関する基礎的な知識を前提に、「委任の連鎖」と「責任の連鎖」というモデルに照らして制度の意義を捉えることができるかを問う問題である。問5は、少年法や刑事事件についての基礎的な知識を前提にして、令和3年の少年法改正について考察できるかを問う問題である。問6は、日本国憲法の表現の自由の保障に関する知識を活用しつつ最高裁判所の判例を読解し、その保障の意義を捉えることができるかを問う問題である。正答率は、問1が最も低く、問2、問3、問5もやや低く、問6が最も高かった。全体としての難易度は標準であった。

第7問 SDGs策定までの経緯を踏まえて、その意義と課題について探究する問題を作成した。国家間における取組みの工夫や国家以外の主体による取組みなどについて考察させることをねらいとし、現代社会の諸課題について幅広く問う問題を作成した。問1は、SDGsに至るまでの環境や開発に関する国際会議の流れを問う基本的な問題である。問2は、京都議定書及びパリ協定に関する知識を前提に、地球環境問題への取組みに関する歴史的展開の中で各条約の意義や位置付けを考察させる問題である。問3は、国際機関の仕組みに関する知識を問う問題である。問4は、発展途上国の債務問題について、専門的な指標に基づいて検討・判断させる問題である。正答率は、問1が最も低く、問2、問3もやや低く、問4が最も高かった。全体としての難易度は高かった。

### 3 出題に対する反響・意見等についての見解

「倫理」分野に関する反響・意見等についての見解は以下のとおりである。

高等学校教科担当教員や教育研究団体より、試験問題の内容・範囲、試験問題の分量・程度、試験問題の表現・形式等について、多面的に意見・評価を頂いている。

教育研究団体からは、「おおむね学習指導要領に則り、基礎的基本的な知識を確認する問いや、確かな基礎的基本的な知識に基づき資料等を読み込み「倫理」及び「政治・経済」で学んだ見方考え方を発展させた思考力判断力を駆使して解く問いを中心に構成されている」と評価を受けた。

高等学校教科担当教員からは、「試験全体の分量や文字数についても、「倫理」と「政治・経済」それぞれの問題作成方針を考慮すると適切なものであったと考える」と適切なものであったと評価された。

「政治・経済」分野に関する反響・意見等についての見解は以下のとおりである。

出題内容・範囲、分量、出題形式、難易度のいずれについても、「適切」と評価された。なお、場面設定とも関連するが、「端的に知識・理解を問う設問が増え」とも指摘された。今後の問題作成に当たっては留意したい。

第5問については、全体としての難易度は標準であるとの評価を受けた。場面設定に際し、生徒が授業を振り返りながら整理したノートを用いた点については、改善を求める評価があった。今後の検討課題としたい。日本国債の保有者や金融政策に関する問5は、「金融政策について、基本的な知識・理解を基に日本国債の保有者構成比と保有高に関する資料を読み取る力を問う、標準的な設

問である」、「基礎的基本的な知識と思考力判断力を問う」と評価された。国内総生産に関する問6は、「基本的な知識・理解を踏まえて、メモを読み取る力を問う、やや難易度の高い設問である」と評価された。いずれも問題はなく適切であったと考えるが、今後の問題作成に当たっては留意したい。

第6問については、『『国内外の政治や法制度』をテーマにした政治分野の問題であり」、生徒たちが受けた「模擬授業のテーマから知識・理解を問う問題を中心に出题されているが、最高裁判所の判例などの資料を読み取らせる問題や時事的な要素を含む問題もあり、全体としての難易度は標準である」との評価を受けた。場面設定に際し、改善の余地があるとの指摘があった。今後の検討課題としたい。戦争の違法化に関する問2は、「会話を読み、二人の生徒の立場から国際関係を見る眼を問う基礎的基本的な問い」と評価された。日本の統治機構における委任と責任に関する問4は、「日本の立法と行政の責任関係についての知識・理解を基に思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問で、標準的な難易度の良問である」、「制度論に陥らず『委任の連鎖』と『責任の連鎖』から考えさせる、平易ながら良問」と高く評価された。少年法改正に関する問5は、「18歳を巡る諸課題は高校生にとっては身近な話題であり、自らが法的関係と無縁ではないことを受験者に認識させる教育的配慮に満ちた問い」と評価された。

第7問については、『『SDGsの意義と課題』をテーマにした政治分野と経済分野の融合問題であり、現代社会の諸課題について幅広く取り上げられている」、「全体としての難易度は標準である」との評価を受けた。地球環境問題の取組みに関する問2は、「京都議定書とパリ協定についての知識・理解を問う、やや難易度の高い設問」と評価された。対外債務に関する問4は、「対外債務問題を例に論理的思考力を問う。メモに資料の定義や説明が述べられているので、知識は必要ない」と評価された。

#### 4 ま と め

「倫理」分野についてのまとめは以下のとおりである。

高等学校教科担当教員や教育研究団体より、試験問題の内容・範囲、試験問題の分量・程度、試験問題の表現・形式等について、多面的に意見・評価を頂いている。

高等学校教科担当教員から、「複数の資料を読み取り、現代社会の諸課題を多面的・多角的に考察させる、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問もみられた」と出題としての適切性を評価されたが、教育現場の改善に資する出題としての性質を発揮できるような出題を心掛けたい。

「政治・経済」分野についてのまとめは以下のとおりである。

「高等学校教科担当教員の意見・評価」や「教育研究団体の意見・評価」で述べられているとおり、全体としては、高等学校学習指導要領に則して「政治・経済」の全分野にわたり、基礎・基本を重視しつつ、知識・技能の定着状況を確認する設問、多面的・多角的に考察させる設問、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことを求める設問など、共通テストに求められる水準の問題を作成できたと判断している。

さらに良質な問題を作成するために、今後の問題作成に当たって引き続き留意すべき点もある。まず、共通テストではリード文に代わる大問の導入部分を各設問とのつながりも意識しながら設けているが、授業改善を前提とするメッセージ性については一定の評価を受けつつも、生徒が主体となって活動する場面設定の少なさや各設問との関係性の薄さ、専門性を活かしたリード文の重要性などが指摘された。また、分量については問題作成方針を考慮すれば適切と評価された。さらに、知識の理解の質を問う設問や教育的配慮に満ちた設問などを出題することへの期待に、今後も応えていく必要がある。